

☆ Giant Killing (ジャイアントキリング) 達成 ☆



【大会会場前にて全部員での集合写真】



【大会に出場する男女選手の集合写真】

令和6年6月1日(土)、栃木県は宇都宮市にあるユウケイ武道館において『令和6年度第72回関東高等学校柔道大会』が行われました。

本校柔道部は男子団体戦と女子団体戦に出場し男子団体が2回戦敗退、女子団体が初戦敗退という結果に終わりました。結果だけ見れば、あまり良い結果には見えませんが、**内容たるや本当に素晴らしい関東大会でした！**

関東地区の高校生や監督、その保護者や大学関係者も目に留まるような戦いを男女とも繰り広げ、**『牛久高校ここにあり！』**と存在感を示す関東大会となりました！

応援してくださった保護者の皆様をはじめ、沢山稽古をつけてくださったOB・OGの皆様、本当にありがとうございました。



【初戦の開始を待ち構える男子選手達】



【とても仲の良い女子選手達】

【戦評】

男子団体の初戦の相手は安田学園（東京都第4位）である。非常にレベルの高い東京都でベスト4に入る強豪校。東京都予選では国士館高校に1対2と非常に肉薄した試合をする力のある学校だ。一方本校は茨城県第5位（ベスト8）のチーム。会場にいる、ほとんどの人は安田学園の勝利を確信していただろう。そんな中、本校部員はチームポロシャツにも書いてある『負けてたまるか！』の心意気で試合の開始を待った。

先鋒大野は相手チームのエース（東京都73kg級第3位）。この選手には練習試合で対戦した3年生は全て一本負けを喫している非常に強い選手である。しぶとく戦うも相手選手の技を耐え切れず技ありを奪われる。そのまま寝技にはいり抑え込まれ「合わせて一本」での敗退。0対1とリードを許す。

次鋒井上。先日の県ジュニアで優勝している、こちらのエースである。相手選手も60kg級ながら都大会3位に入賞した経験を持つ選手。相手チームの軽量級の2番手の選手である。こちらは井上が攻勢。立技から抑え込みへのスムーズな移行で一本勝ちを収める。ここで1対1とスコアをタイに戻す。

中堅荒川嶺真。相手はこちらも60kg級ながら都大会3位に入賞している選手だ。ストロングポイントである受けの強さと粘り強い寝技で値千金の一本勝ちを収める。この1点が本当に大きな1点であった。

続く副将主将の藤澤。相手は81kg級の選手。こちらも1階級大きな81kg級の選手で、力負けをする少し嫌な展開。しかしながらキャプテンの意地でどうにか勝利を掴もうとするも、力及ばず引き分けに終わる。

この時点でスコアは2対1。大将戦を引分、もしくは技有以下の敗退でも勝利が見える展開となった。

大将大谷。最重量級の大谷と対戦相手は81kg級の選手。頑張って攻め込むも、相手との距離が詰まり逆に相手選手の強引な持ち上げる技が決まりやすくなってしまふ。時すでに遅し、思い切りのよい裏投げで一本負けを喫する。

結果2対2とスコアが同点となり代表戦となった。

選手達に代表の選手を決めてもらい、本校はエース井上。相手は先鋒に出てきた相手チームのエースである。井上も夏の練習試合では2戦して2敗を喫している強豪選手である。しかしながら、チームの想いを背負った井上はリベンジして勝つ事しか考えていない、精神的にも肉体的にも素晴らしい状態で試合に臨むことができた。

代表戦。序盤は相手選手が攻勢に進めるも、井上が何とか凌ぐ展開となる。お互いに左組。しっかり投げて勝とうとお互い思い切りよく組み合う。少し消極的な場面も出てきてしまい井上に指導のポイントが入る。粘り強く粘り強く組手を丁寧にしながら技も繰り出す。本戦の3分間があつという間に過ぎてしまった。

ここからは延長戦。ポイントを先に取った方が勝者となる。相手選手も疲れが見え始め、少しずつ井上の良い形が作れるようになった、延長戦30秒が過ぎたところで試合が動く。**相手選手の打ってきた技の力をうまく逃がし、逆にその力を使い捨身技に行けばもの見事に『一本』**主審の手が高々と挙がり、井上のそして牛久高校の勝利が決まった。誰がこの勝利を予想しただろう。ジャイアントキリング達成である。

本当に素晴らしく見ているものを感動させる試合であった。

次戦の前橋商業（群馬県第1位）戦は0対5で敗退。力及ばずであったが、記憶に残る関東大会となった。



【円陣を組んで士気を高める男子選手】



【代表選で攻勢に出る井上選手（写真左）】

女子団体は本大会では2番目に軽量チーム（平均体重52.33kg）である。しかしながら、一番気持ちの入ったチームであった。初戦は藤村女子（東京都3位）。昨年の関東大会でも初戦で当たった因縁の相手である。日本代表選手を輩出している強豪校である。

先鋒はエース中山。**対する相手選手は57kg級と2階級も大きな選手との対戦**。それでもエースの中山が勝たないうちのチームは勝てないため積極的に勝負に出る。相手の技術が非常に上がってきており、ほぼ互角に試合を進める。相手選手は身長も高いため、思うように懐に入り込めない。頑張って攻めるも時間だけが過ぎていく。残り30秒となった辺りで中山が勝負に出る。思い切りの良い大外刈りに入れば、相手選手はこれを返そうと踏ん張る。ここから中山はさらに踏ん張り返し、前に踏み込む。**そのまま小外刈りに切り返し値千金の『技あり』を奪取**する。これをしっかりと守り、まずは幸先よく1対0とスコアをリードする。

続く中堅緒方。1年生ながら試合を作り出す。相手選手も2年生で一階級重い57kg級の選手。こちらも力強く攻め立てられるも緒方が頑張って凌ぐ。もう少しで引分に持ち込めそうだったものの、最後に抑え込まれてしまい、一本負けとなる。

最後の大将は佐島。また、大きな相手である。一発逆転を狙い相手に立ち向かう姿は本当に頼もしい。ここも技術の差が大きく、佐島が何もできぬまま絞め技で一本負けとなった。

結果 1対2で敗退となった。



【体格の大きな選手に立ち向かう中山選手（写真右）】

男子も女子も選手のみんなは本当によく頑張りました。初戦から魂のこもった熱戦を繰り広げ、牛久高校は本当によく鍛えられていると沢山の他県（特に東京都）の先生方からお褒めの言葉をいただきました。まだまだ上位大会で入賞に食い込むのは難しいですが、一歩ずつ成長しもっともっと愛されて応援される部活動になれるよう頑張ります。